

2010年度湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」成果報告書
エチオピア中世修道院修復に向けたワークショップの開催

慶應義塾大学 政策・メディア研究科 修士課程1年 清水信宏

■はじめに

エチオピア・ティグレ州アツビ近郊に位置するアシラメティラ修道院において、旧聖堂の保存修復プロジェクトが行なわれている。現在はその基礎調査段階にあり、保存修復に向けたヴィジョンの策定および対象旧聖堂の復元設計が行なわれている。ワークショップは本プロジェクトに付随して、修道僧からヒヤリングを行なった上で、上記のトピックについて議論することを目的に行なわれた。

なお本プロジェクトは、日本とエチオピアの共同によって行なわれているものである。日本側からは三宅理一氏（藤女子大学教授）、慶應義塾大学および法政大学の学生有志が主に参画し、エチオピア側からはメケレ大学 IPHC (Institute of Paleo-Environment and Heritage Conservation)、ティグレ文化協会 (Cultural Association of Tigray) が主に参画している。

■アシラメティラ修道院について

対象のアシラメティラ修道院は、エチオピア正教エスティファノス派の流れを汲む修道院で、周囲を川や農園、伝統民家の広がる豊かな景観に恵まれている。

1970年代に始まった社会主義政権（デルグ）時代による、農場や家畜の接収によって衰退を余儀なくされた本修道院は、2003年には修道士が1人にまで減少した。現修道院長のゲブレメディヒンが中心になって同年より再建に乗り出し、地元社会や UNICEF、現地の大学などとの結びつきを強化してきた。具体的には、孤児院やホスピスの運営、農地の開墾、養蜂、織物の製作などの活動を始め、現在も修道院コミュニティの復興に力を注いでいる。

対象の旧聖堂は1992年の落雷によって大きな被害を受け、再建後の新聖堂完成を機に聖堂としての機能を停止した。2009年度には、修道院活動の拡張に伴う施設整備のために織物工場へと改装がなされた。保存修復終了後は、修道院文書などの貴重文書の保管や、修道僧の瞑想の場として使われることが指向されている。

保存修復プロジェクトは、創建当初の姿へ復元することをハードとしては目指すものであるが、その運営などの点において、修道院コミュニティの復興自体とも密接に関係しながら計画を策定していくことが求められている。



[写真1]アシラメティラ修道院全景



[写真2]アシラメティラ修道院旧聖堂現況

■活動詳細

本ワークショップは、日本の大学と現地のメケレ大学の協働によって行なわれた。プログラムは主に、修道僧へのヒヤリングとそれを基にしたディスカッションによって構成される。以下に、より具体的な

項目について記す。

[ヒヤリング項目]

- ・織物工場への改装に至る経緯
- ・改装前における旧聖堂の具体的なありよう
- ・修道僧が旧聖堂に感じる聖性についての意識

[ディスカッション項目]

- ・復元案の修正 *
- ・プロジェクトの運用
- ・建築の修復が修道院にもたらす意味

*ワークショップに先立って、2010年度8月の調査をもとに復元検討図面および模型が日本において作成された。



[写真3]ワークショップ前に造られた模型



[写真4]ディスカッション風景

ここで行なわれたディスカッションなどを通じて、これまでの復元案に修正が加えられた。他にも修復プロポーザルを策定していくために必要なトピックについても話し合うことができた。日本とエチオピアという離れた土地に暮らす者同士が、調査の進捗や問題意識を一定程度共有することはできたものと考えている。

■今後の展望

今回のワークショップを通じて、建築を修復することが修道院に何をもたらすのかをもっと深く考えなければならないことを自覚した。我々の考えている「修復」の意味と、修道院の考えている「修復」の効用は恐らく違って、それを意識しなければ「修復」は真の意味で修道院のためにはならないということである。これらの点も鑑みた上で、修復プロポーザルを策定していくことが求められているものと考えていることができる。

■その他

なお本ワークショップで行なわれたヒヤリング調査によって得られた知見などを基に、「2011年度日本建築学会大会(関東)学術講演会」で発表される予定の研究発表梗概が2編執筆された。(共著：三宅理一、真野洋平、岡崎瑠美、樋口諒)

- ・「アシラメティラ修道院旧聖堂の復元的研究」
- ・「エチオピア正教エスティファノス派修道院の立地と空間形式に関する研究」

■謝辞

本ワークショップは2010年度湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」の支援によって開催された。記して、感謝したい。